

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第138号(2018. 9. 1)  
事務局 川西地区自主防災会

## 東かがわ市の取組について藤井市長にお聞きしました

平成 30. 08. 07 東かがわ市役所 市長室にて

### 東かがわ市の概要

平成 15 年 4 月 1 日に引田町・白鳥町・大内町の 3 町が合併して、東かがわ市が誕生しました。東かがわ市は、香川県の東の端で徳島県鳴門市と接しています。

地場産業の手袋生産は、伝統産業であり、はまち養殖の発祥地、そして有名な製菓や和三盆糖などの伝統を今なお受け継ぐ、伝統と文化、自然環境豊かな市です。

人口 31,099 人 世帯数 13,923 世帯 (平成 30 年 8 月 1 日現在)

面積 152.83 km<sup>2</sup>



東かがわ新市庁舎(平成 27 年 3 月竣工)



讃州井筒屋敷

藤井秀城市長プロフィール 昭和 27 年 2 月生まれ

昭和 49 年 明治大学工学部卒業

平成 15 年 11 月 東かがわ市議会議員当選

平成 19 年 4 月 東かがわ市長当選(現在 3 期目)

インタビュー要旨(A:藤井市長、Q:岩崎会長)

Q. 他の首長さんは議会出身の方が多くおられますが、藤井市長さんは、議会だけでなく民間のご経験もあると聞いております。新聞等で拝見しましたが、民間のご発想で新しい形の行政をどんどんとやられている事がわかります。

A. 職員を始め、東かがわ市が位置的に香川県の端にあるということで、受け身の姿勢ではいけないという危機感が常にあるのではないかと思います。岩崎会長さんを始め、皆様方に今後共にご指導を頂き、少しでも防災・減災ができるように努力していきたいと思っております。

Q. 災害時に農家の備蓄米を提供して頂く話があったと思うのですが。



A. 農家の経営者協議会の皆様方に、災害があった時にお米をどの位ご協力して頂けるか、それもお米が時期的に1番少ない時においてもどの位供給頂けるかということ協議して、協定を結ばせて頂きました。農家の皆様方は協力しないといけないというお気持ちを強く持っておられる方が多いです。何処へ持って行ったらいいのか、どのようにしたらいいのかと次の段階まで色々と心配して頂いております。きっと災害時には大きく役割をして頂けると期待しております。

Q. 2年前の熊本地震でもアルファ米とか非常食を食べる事が多くなると、残す量が増えるという結果が出ております。訓練の時には徹底して薪で炊いたご飯を作るのだと思っております。東かがわ市さんのまねをして農家から新米を預かり一年後に新米に入れ替えて行く形を取っております。

A. 災害が発生して数日間には質までは言えないですが、少し時間が経ち、落ち着いて来たら皆で協力し合って行なった方が良いと思います。地域の方の中には、電気が止まったら精米はどうしたらいいのか心配してくれる方もいらっしゃいます。地域の方を巻き込んでどうするかを議論をすることが実際の成果につながって行くと思っております。行政の発案で、ああしてこうしてと進めていくだけでは駄目だと思っております。

Q. 倉敷市真備町の復旧支援活動（7月と8月の2回）の際に、住民の方に色々とお話を伺うと、行政から良い防災マップをもらっていたが、それを基にした研修とか避難訓練等はほとんどやっていなかったということでした。お年寄り等の災害弱者を先に避難させねばならない事はわかっていたが、訓練していないものだからぱっと動けなかったと話されておりました。

A. 実際にこうなったらどうするのか、そこまでの訓練が大事です。消防団の訓練におきまして、倒壊家屋における救出訓練を数回行いました。頭で想像するだけでなく、リアルに体験できる良い訓練になっているように思います。

また、毎年9月の第1日曜日に市民の防災訓練を実施しております。なかなかリアルな訓練にするのは難しいですが、市民の皆様もせっかく集まるのだから少しでも実のある防災訓練になるように毎年工夫をして頂いております。



Q. 重機を活用しての取組は非常にいいと思います。事が起きたら手作業が必要な場所もありますが、重機が入る所は、重機で

大掛かりに手早くやってあげたら助からない命も助かると思います。

A. 平成16年の台風時に、湊川という市内で1番大きな河川が決壊して、1人女性の方が取り残されました。その時には近くの建設会社の方がバックホウを持って来て、女性を無事に救助して頂きました。あの状況でしたら、歩いて救出しようとするので、重機が無くては救出が困難でした。色々な事がこれからあると思います。平成16年の台風時も、80歳や90歳の方でもこのような災害は見たこと、経験したことが無いと言っておりました。100年、200年に1度の災害が平成16年にあったから当分無いだろうとは、昨今の状況を見ると言い切れません。

Q. 昨年九州北部豪雨の被害があった地域に今年1月に招かれて行きました。5年前にも同じ様に豪雨があったそうです。自治会長さん達25人程とディスカッションしたところ、避難訓練をよくやっている自治会は犠牲者を出しておられないことがわかりました。会長さんから各役員に伝達がぱっぱ、ぱっぱと届いていたようです。ところが避難訓練をしていない自治会は市役所から避難勧告や避難指示が出てから5時間以上経って初めて動こうと考え、動いた時には目の前に濁流が押し寄せて来ており、お年寄りが逃げられず、随分亡くなったとおっしゃっていました。やはり訓練している自治会と、訓練をしてない自治会とではものすごく違います。

A. 特に感じるのが、ご年配の方になかなか避難して頂けないということです。平成16年の台風時に高潮でお尻が浸かるまで水が来て、消防団の方が「おばあちゃん早く出よう、出よう」と言うのに、「いやかまん」と言ってなかなか避難して頂けないことがありました。ご年配の方にも、消防団の方が救出に来てくれた時には、ありがたいの気持ちで一緒に行動して頂くということを平日頃からお願いしておくことが大事であると思います。迅速な避難行動を取って頂けないと、救出に行った消防団の方が時間を費やして2次災害になってしまうことが考えられますので、そのような啓発も含めて日頃からの訓練が大事であると思います。

Q. 例年、市全体の訓練を9月にされていますが、他に、小学校校区単位で何かされていますか。

A. 市内にはコミュニティ協議会が7団体あります。旧小学校区単位で結成されており、行事の中で防災訓練をしているところも多くあります。自治会は大きい所では100、200世帯の所もあれば、数世帯のところもあり、かなり幅が広いです。やはり、防災面からも一定の規模が必要であると感じています。順次、コミュニティ協議会が立ち上がってきておりますが、その中でより有効な防災訓練を実施するように進めて頂いております。今立ち上がっているコミュニティ協議会は、リーダーがしっかりされている方ばかりですので、地域の中で、人を集める、何かを実行する、というはっきりしたメリハリがつく所が多いようです。



Q. 東かがわ市のホームページを見ていると、自治会毎のハザードマップを作っております。あれは素晴らしいと思いました。

A. 結構、近所の方が集まったら、それが話題になりますね。私の自宅も少し危ないと言われております。今年9月の防災訓練の時に、全部の自治会にもう一度避難場所とか避難経路の確認、見直しを行って頂きます。ある程度の広域的な範囲で、市からどこが避難所というのは必要ですが、その小さい自治会の中で、まずどこに避難するか、例えば裏山を駆け上がるとか、皆様がそういうルートを持って頂く事は不可欠です。ハザードマップを基に、子ども時代に遊んだ時の経験から色々な事を引くくめて、マイ避難経路を各々が持って頂くようにして欲しいと思います。また、市民の皆様に対する自発的な避難行動の重要性についての啓発がまだまだ必要であると感じています。一方、防災意識が高い方の中には、地域に新しく会社のビルが建設されたら、その社長さんにお話しして、何かの時には避難させてくれるように地域の避難ビルとして決めている方もいらっしゃると思います。防災意識をそれぞれが強く持つことが被害を少なくすることにつながると思います。

Q. 一時避難場所は身近な所で5時間6時間かお世話になれば良い場所ですから。

A. そこがまだうまく理解されておられません。避難所は市の広域避難場所だけと思っている方もいらっしゃいます。広域避難場所は少し落ち着いてから避難生活を送る避難所であり、1番危険な時を一時避難所でどうするのが十分認識されていない方がまだまだ多いように思います。数時間はそこで過ごして、一時避難所で皆さんの安否確認等して、状況により市指定の広域避難場所に避難する事を理解して頂くようにしていきたいと思います。

かがわ自主ぼうの皆様は、非常に知識も豊富であり、色々ご指導頂けたらありがたいです。1年の内、かがわ自主ぼうの行動と言ったら物凄い回数あるのでしょうか。

Q. 毎年11月にシェイクアウトの訓練が県下いっせいにありますが、あれにプラスワン訓練として何か一つ、例えば福祉施設の避難がどうあるべきか体験しながらやってほしいと思い、昨年15施設を廻りました。東かがわ市さんでは、白鳥園と湊荘です。今年は中身をもう少し充実させようと、今までの訓練では健常者が多かったのですが、福祉施設の人達にも体験していただきました。同じ担架に乗せてあげても違うのですよね。ある所でこちらの不備でおばあちゃんの頭が、どこかに少し当たったようです。おばあちゃんが泣き出しあんた等は私を殺す気ですかと言われ、その理事長や施設長が困った事もありました。本当に用心して訓練に当たらないといけません。

A. 施設の方は、職員の皆様が日頃から対応を考えてくれていると思いますが、自宅で1人暮らしをしている高齢者、また、障がいのある方の対応というのは市としても避難行動要支援者として対象者の名簿作りから始め、誰が助けに行くかまで決めておくようにしております。しかし、現実にもうまく機能させるためには、まだまだ多くの課題があるように思っています。日頃から元気な時に皆様を助けたり、地域

のためになる事をしておかないといけませんね。そうした方が高齢者になったら、皆様大事にしてくれますよね。

本市の自治会の加入率も71%位で、そんなに未加入の方が多いかなとは思いますが、数字ではそうなりません。日常は未加入でも支障が無いのですが、何かあった時には1番近所の方が頼りになることを認識して頂けたらと思います。

Q. 丸亀市も間もなく50%を切るような状態になってます、私の地域は5年前、丸亀市内でワーストワンの41%位でした。そのままであれば30%代に下がるので何かせないかんとする事で、奮起しました。若い人や自治会役員になりたくない、水路の清掃したくない、お宮さん、お寺さん付き合いしたくない人達を引っ張り込むために、小学校区を一抱えにしたコミュニティ自治会を作りました。役員は校区の連合自治会の役員が当たり、事務処理もコミュニティセンターの事務職員が会計も全部やると言う事で、200世帯位入ってくれました。今では組織率も47%まで回復してきております。売り込み文句は2つあり、まず1つは、災害時の情報伝達ができるということ。もう一つは、子供さんが皆様小さく、防犯灯設置の問題があったので、自治会として一つの組織になったら行政に防犯灯設置の話ができるということ。これら2点をお話すると、たいていの若いご夫婦にも納得してもらえるようになりました。

A. 色々な意味でコミュニティというのは防災の時に1番効果を発揮します。日常においても同じで、住むにしてもご近所の方と朝にこやかに挨拶して過ごせるというのと、隣にお住まいでも知らない顔をして過ごすのでは、日常生活の快適さというのか気持ちの在り方がものすごく違うと思いますね。そうした事を私達世代の人は若い人に背中教えることが必要でしょうね。自然にそうした付き合いの中で物事はうまく行くということが若い世代に伝わって無いのかなと思いますね。東かがわ市でも企業さんの中でガソリンとかを販売されている方が、うちには燃料、水もあるので何かの時には場所が広いから一時避難所に使ってくださいと自主的に申し入れして頂きました。大抵の場合はこちらからお願いするのですが、その時は向こう様からこうするから使ってくださいと言って頂きました。本当にありがたいことです。特別養護老人ホーム湊荘さんも、地域の湊地区の皆様が一時避難所として、市が間に入らず、地域と理事長さんと直接話して使う事が決まったそうです。



Q. 昨年、港荘での訓練の際に、火を起こして薪で何かやってくれませんかと言われて、何時もは羽釜でご飯を炊くところですが、諸々の事情から。あめ湯を作って施設の皆様にさし上げることにしました。これが受けましてお代わりの声もありました。それ以来、西の方に行っても全部あめ湯を炊いてあげており、西でもまた当たりました。施設を利用されているご老人の方が、昔を懐かしく思い出していたようで、良かったです。

A. 高齢者が楽しく喜んでくれ、なおかつ何かの時に役立つことが1番ですね。東かがわ市は山と川を挟んで海と言う地形の中で、綺麗な海山を生かした事をもっともっと若い人たちにアピールしていきたいと思います。

市内にある3校全ての中学生を対象に、東かがわ市交流プラザで、年1回各企業の皆様30社から40社に集まって頂き、説明会を開催しています。どのような企業が地元であり、職場があるのかということの説明を分かってもらって、それを将来自分がどこを目指すかのキッカケにしてくれたらいいと思います、行っております。



防災も何かあった時は大都会程大変だと思います。田舎は食糧にしても住む場所にしても、まだ対応し易いと思いますが、大都会で大きな地震でもあったら大変です。大きなビルで一斉に階段を降りただけでも下で大変なことが起きるかも分かりません。しかし、かがわ自主ぼうという役割で、これほど皆様が認識して頂いて、この時代に良い傾向でないでしょうか。非常に

リスクが高い社会の中で自主防災という役割の大きさというのを皆様が認識してきておりますね。私共もそうした事をお教え頂いて、より一層そうした防災・減災を皆様が認識して頂けるようにしていかなければいけないと思います。

Q. 我々が作った時には、お互いに助け合いが出来たらいいだろうと、行政は行政でネットワークが有りますけれど、我々は別に無いものですから、困った時に道具等も貸し借りしたらと言う思いでした。

A. 会長さんがおっしゃる事、私も物凄く思います。行政は行政でする事は絶対にしなければならない。ただ、行政だけに市民の皆様が頼ってしまっただけではあまり効果が出ないと思います。実際にどのように動くかは、それぞれの方がそれぞれの判断において対応していけるような訓練を常にしておく必要があると思います。

Q. 東日本大震災発生後の炊き出しは、丸亀の単独部隊だけで行ったのですが、熊本地震発生後の炊き出しでは、やはり広い範囲の方に体験して見てもらった方が良く考え、県内の人にまんべんなく一緒に行ってもらいました。先日の倉敷市真備町への支援時も県内西から東の自主防をやっておられる人に行ける範囲で行ってもらいました。

A. この暑い中のご苦労ですね。昔のようにスコップ等使った経験の無い人ばかりが、あの暑い中、作業するのは大変なことでしょう。大勢の皆様方がして頂けるのは凄いと思います。

Q. 市長さんは24時間常に大変緊張感がある仕事ばかりされていると思いますが、ストレスの解消法をざっくばらんにお聴かせ下さい。

A. 静かな解消法は晩酌を頂くことです。健康も考



えて60歳を過ぎてからは2日飲んだら1日休みのペースにしております。地元に住たらその機会も無いのですが、東京とかに出張したら1時間とか2時間、時間ができたらカラオケボックスで1人わんわんと歌ってストレス発散させます。周りに人がいたら上手、下手とか気になりますが、1人だったら怒られる人がおりませんから。不器用な方ですので上手な色々な解消法ありませんけどね。会長さんはどうですか。

Q. 僕は毎日飲むから、家内に叱られる、少しは身体を休めまいと言われる。

A. 私も60歳までは休み無しでしたが、60歳になったら週1日位休まないといけないかなと思ひまして。よく身体を動かす人は毎日でも良いと思うのですが、私はあんまり体を動かさないから週1回は休肝日を作らないといけないかなと思ひております。

Q. 明日から真備町に行きます。向こうのボランティアセンターからできたら軽トラックを多く持ってくるように言われたので、軽トラ3台と鉄工所の親父さんからおかりした2tトラック1台、計4台持って行きます。自分達で災害ゴミを搬出して来て、よその人の車で指定の場所まで運ぶのは効率が悪く、どこかに仮置きすると2度手間になってしまうと、前回の真備支援時に学びました。

A. 今のボランティアセンターは、あれ頼む、これ頼む、と言う人は要らないのですね。自分でちゃんと最後までできる人を求めているのですね。

Q. 行政から言われている所まで持って行くように段取りしてあげた方が良いでしょうと言う事です。

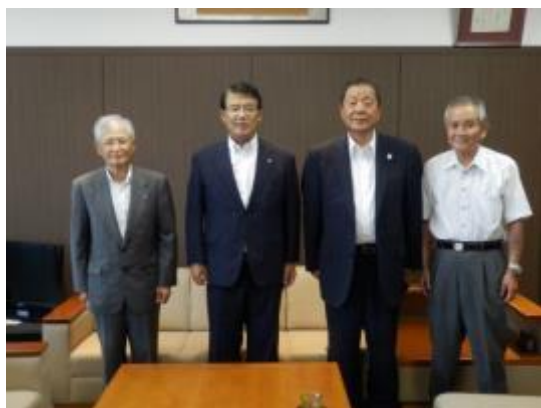
A. それは効果的ですね。

Q. 20人余り行きますので4台持って行けばちょうど良いかなと思ひており、4、5人に一台で処理場まで運んで行ったらと考えております。

A. 20人と車4台行けば大きな仕事ができますね。

Q. 細い路地や、重いものが結構ありますので一輪車4、5台持って行きます。行くからには、きちんと仕事してあげたいです。

A. 20人の方が働いたらかなりの仕事ができますね。暑い中ですから、決して無理をしないようにしてください。



藤井市長さん、お忙しい中にこやかに貴重なお話を聞かせて頂き、誠にありがとうございました。かがわ自主ぼうと致しまし市長さんの想いに叶うように頑張ります。どうぞ今後共ご協力を宜しくお願い致します。

# 事務局だより

平成30年 9月

今月は引き続き、平成30年7月豪雨災害において甚大なる被害を受けた岡山県倉敷市真備町への復旧支援活動についてご報告します。

## 1、倉敷市真備町へ2回目の復旧支援活動

8月8日(水)、9日(木)の2日間、真備町服部地区へのべ45名で行って来ました。家具や畳等が家屋から取り除かれた状態の住宅に入って土カベ、更に座板の撤去と床下の土砂を土のう袋に入れて指定された処理場まで運搬、又、駐車場に一時積み上げている家屋からだされた土砂の入った土のう袋(計1,000個)を、指定された処理場まで運搬を行った。この度の支援活動には、ボランティアセンターからの要請により2tトラック1台と軽トラック3台、更に一輪車7台、食事と休憩時の場所の確保するため、テント1張りも用意してのぞみました。1日に20数名投入、夕方(17時)までキビキビした作業に現地の皆さんから「生きるチカラ」を与えていただいた。今後、真備町へお近寄りの際、是非とも立ち寄ってほしい・・・と。私どもも暑い中頑張ったかいがあり、さわやかな気持ちで帰路に就くことができました。





## 2. かがわ自主ぼう第2回役員会の開催

8月30日（木）、14：00より、国分寺会館会議室において  
かがわ自主ぼう役員17名、事務局3名により、本年度下期の重点事業の取り組みについて、議論を行った。尚、香川県危機管理課からは溝渕補佐、稲田副主幹、柴田主事が出席。

- 1) 11月1日（木）10：00 県下一斉に行われるシェイクアウト訓練に、自主防災組織から、県民総参加の10%以上（約25,000人）の参加となるよう県内自主防災組織に呼びかける
- 2) 福祉施設等を対象としたプラスワン訓練については、各役員の計画について、意見交換並びに集約を行った結果、予定として22施設、プラスワン訓練を行うこととして、今後日程と稼働調整を行う事となった。  
各地区の予定は次のとおりです。  
高松4 丸亀5 坂出1 善通寺1 観音寺2  
さぬき2 東かがわ3 三豊3 宇多津1
- 3) 平成30年度香川県総合防災訓練の実施について  
日程・・・平成30年10月28日（日） 9：00～11：30  
会場・・・観音寺市 琴弾公園  
担当・・・「避難訓練」と「避難所運営訓練」、観音寺市自主防災組織70名参加
- 4) 平成30年度リーダー研修の実施について  
日程・・・平成30年11月3日（土）～4日（日）  
会場・・・高松オオクラホテル  
募集人員・・・45～50名  
その他・・・県内各市町よりバランスよく参加するよう努力する。

### 編集後記

今月の防災減災の輪は、東かがわ市藤井秀城市長にお話を伺いました。ありがとうございました。